

本件連絡先

泉南市教育委員会 文化振興課 公民館係

担当:小西・水田

TEL:072-483-4361

Mai:itarui-k@city.sennan.lg.jp

令和3年6月30日

泉南市報道提供資料
報道機関 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦

新型コロナウイルス感染拡大防止と家庭内での創作活動を！

「妖怪アマビエ作品大募集」について

泉南市では、令和2年8月から、新型コロナウイルス感染拡大防止の取組の1つとして、疫病退散で知られる日本の妖怪「アマビエ」の姿を模した作品の募集を行って参りました。現在、応募いただいた作品は、本市ウェブサイトと泉南市立樽井公民館で展示を行っています。

令和3年6月から作品募集を再開しています。不要不急の外出を控えることで増加した家庭内の時間を創作活動に使い、その作品をみんなで共有できるよう、オンライン展示会でも発表します。

記

【概要】妖怪アマビエ作品募集と展示会の開催

【募集期間】当面の間

【展示場所】・泉南市ウェブサイト（「泉南アマビエ」で検索）

・泉南市立樽井公民館（泉南市樽井6-11-16）

※緊急事態宣言期間中は、臨時休館となります。

【詳細】別紙、募集要項をご覧ください。

【目的】創作作品をオンライン展示会により、多くの方々と共有します

【主催】泉南市教育委員会 文化振興課 公民館係

アマビエについて、インターネットで調べると、次のようなことが分かりました。

アマビエは、日本の妖怪の1つ。
江戸時代、後期の刷り物（下図）に、絵と文とが記されている。



肥後国海中の怪（アマビエの図） 京都大学附属図書館所蔵から引用。

肥後国（熊本県）で、夜になると海に光るものが現れた。
土地の役人がおもむいたところ、アマビエと名乗るものが出現し、役人に対して次のような話をした。

「当年より6ヶ年の間は諸国で豊作がつづく。しかし同時に疫病が流行するから、**私の姿を描き写した絵を人々に早々に見せよ。**」
と予言めいたことを告げ、海の中へと帰って行った。

また、このアマビエのルーツと推定される「あまびこ」と呼ばれる妖怪もいるようだ。
年代が特定できる最古の例は、天保15年（1844年）の越後国（新潟県）に出現した「海彦（あまびこ）」である。頭部から3本の足が生えたような（胴体のない）獣のような絵が描かれている。（右上図参照）

「あまびこ」は「**今年（天保15年）に日本の7割の人々が死ぬが、我が形を見た者は死から逃れることができる**」と語ったとされる。

「あまびこ」も、「アマビエ」も、日本における疫病封じの妖怪である。

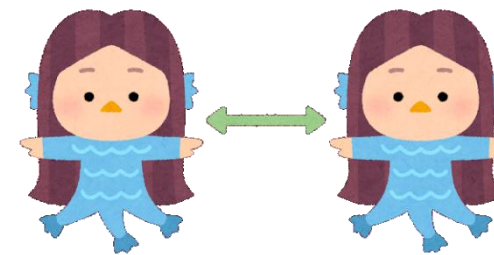
（引用元）「アマビエ」フリー百科事典 ウィキペディア日本語版 (<http://ja.wikipedia.org/>)。
2020年6月12日15時（日本時間）から引用。文章の引用は、文体を編集しています。

「あまびこ」と称される妖怪については、江戸時代後期の天保（1831年）から明治中期にかけて、資料や新聞記事などで確認されています。

共通した特徴としては、

- ・いずれも海中からの出現・豊作や疫病の予言
- ・その姿を写した絵による除災
- ・3本以上の脚部をもつ絵姿
- ・「しばた（柴田・芝田）」という姓の目撃者がいるなどの共通要素があります。

また、アマビエを、「あまびこ」と同種のもの、名称の誤記例であるとする説もあります。



民俗学者「湯本豪一」所蔵のあまびこの肉筆画 ウィキペディアから引用

「あまびこ」の出現場所は、肥後国（現・熊本県）の海に出現したとする資料が最も多く、アマビエが肥後国に出たとする話も、この影響下にあると考えられます。

「あまびこ」の絵は、どの例でも大抵奇妙な姿で描かれています。アマビエの絵にくらべると猿に似た、毛の生えた獣のようなかたちで描かれています。またアマビエの文には採用されていませんが、肥後国に出た「あまびこ」には「猿の声して人を呼ぶ」など、猿のような声をしていたという点が登場します。



※本書では、「あまびこ」を分かりやすくするため「ひらがな表記」にしています。

アマビエ

検索



あまびこ

検索